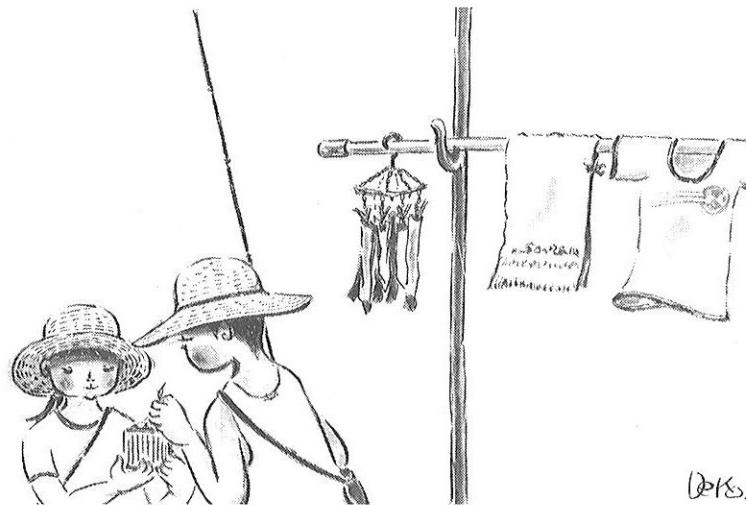


光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京 3-128022
 印刷／社会福祉法人 共愛会

ごきげん

いかがですか!!



絵・中島 英子

善を行つて隣人を喜ばせよ

(ローマの信徒への手紙 第十五章一～六節)

理事長 福島 勲

表題の句は光の子どもの家の

今年度の年間聖句である。

今更こんな陳腐なものをと思

われるかもしれないが、昨今内

外をみて、改めて考えさせら

れる問題である。

ある国への援助、PKO活動

の現状、社会福祉に関わる問題

など一応問い合わせなければ

ならない。

聖書では善行を勧めるが、そ

の動機や目的またモデルとなる

ものが明記されている。

自分の満足を求めるのでなく

隣人を喜ばせよ、キリストもご

自分の満足を求められず、我々

のために苦しめた。そして究

極の目的が示されている、善を

なすということが抽象的には理

解されるが、具体的に実行する

ことは難しい。

けれども心に愛の真実があれ

ば、至る所にその具現の場は見

いだされよう。

愛は惜しみなく奪われるので

ある。

パン屋の一ダースという話が

ある。(渡辺昌美著「ランス中

世夜話)

パンの目方が少なくて当局から

の厳罰と客からの悪評を恐れ

て十二個の他もう一個増して十

三個としたそうである。

このベーカーズダズンは人々に

喜ばれたかもしれない。

情けは人の為ならず、と諺が

あるが、正面きつての善行の勧

めか、それとも善いことをすれ

ばやがて自分にも善い報いがめ

ぐつてくるとの下心であるのか。

もし、後者のような因果律で

の善行ならば、善行の内面的美

徳はその価値を失ってしまい、

ギブ・アンド・テークの取引に

堕してしまう。

聖書のこの善いという字はギ

リシャ語でアガソスという字で

ある。ルカ・十八・十九(マル

コ十・十八)に、イエスに対し

て「善い先生」と呼びかけた者

が、神の他に善いものはないと

咎められている。

見はそれとして認める態度がしっかりして、気持ちがいい。

（？）に研究しているつもり。二〇年前に二年間過ごしたN・H・I（国立保健研究所）を再び訪れ、建物はすっかり変わってしまったことに驚きながら、Pが続いただけで、普段ははじめ（？）に研究しているつもり。

いわば世界の医学研究の総元締めとしての人々の息吹は、相も変わらず盛んである。新しい発見はそれとして認める態度がしっかりして、気持ちがいい。

軽々しく一年間の原稿などを引き受けたからダメなのだと何回つぶやいても始まらない。六月一日に成田を出発する前に原稿をと思いながら外国出張前にする事も沢山あり、とうとうワシントン郊外ロッカビルのホテルに持ち込んでしまった。流行作家でもあるまいにFAXで原稿を送るなどもっての外なのだ。学者とは気楽なものだと思われるだろう。この間、偶然外国出張が続いただけで、普段ははじめて（？）に研究しているつもり。

H・I（国立保健研究所）を再び訪れ、建物はすっかり変わってしまったことに驚きながら、

ひかりのこ

1993年8月1日 第48号

善を行って隣人を喜ばせよ。

採光

天使になれなくて…（4）

名古屋大学付属病院 江崎 満

重症室のMさんからのナースコールである。小走りに訪室すると、紅潮した頬を少しもたげて、ベットの上から小さく微笑んでいる。「三九度八分。また手間をかけるよ。」

お腹もしぶるらしく、両手を当てて時々顔をしかめている。もう三日も下血が続いている。あわてて冰枕を創り、解熱剤の点滴を繋ぐと、Mさんの真っ赤に潤んだ目を覗き込んだ。「君の繋いでくれた解熱剤なら、気遣いを忘れないきめ細やかさとよく効くね。」

どんな時も、Mさんはこういう人であった。

「潰瘍性大腸炎」。原因不明に突然腸壁に潰瘍が多く発し、激しい痛みと下血におそれる特定疾患の指定難病。重症例では腸管に穿孔を生じたり大出血を起こしたりと、死に至ることも少なくない。Mさんは二年前この病気を発症し、入退院を繰り返すうちに徐々に重症化してき

た。この年の四月に下血で緊急入院となつた。

そのころの私と言えば、看護学校を卒業したばかりの何もできない、何も知らないに等しいヒヨコ・ナースであった。内科の患者さんは一般的に年配の人

が多く、病気の経過も長い。病院慣れていて、病気や薬のことと、病棟のシステムや医師たちの顔まで、ヒヨコ・ナースよりもほど詳しい。私たちヒヨコは、よく患者さんにからかわれたり冷やかされたりした。学生の時はまた違ひ、白衣でありますながらも半人前にも満たない自分が、惨めで情けなかった。

Mさんは、いつも穏やかで平穏安心するよ。みんなすてきなナースだ。」何度も採血を失敗しても、慣れない処置に手間取つても、寛容に励ましてくれた。Mさんの部屋にいるとなぜだかほつとした。夜勤の時など、元

親のように慕い、尊敬していた。ある日Mさんのモーニングケニアをしていると、小さなメモを開いて、渡され、「後で読んでね。」とだけ言われた。その後、仕事を終え寮の部屋でメモを開いて、私は愕然とした。

「君が好きです。君に会えることが、何よりも幸せです。君のこと、もとと知りたい。」

次の日も、Mさんの下血と発熱は続いていた。私はその日、

どうしてもMさんの部屋に入る事ができなかつた。失望ということができなかつた。失望というの、言葉にできない思いをどうにもできず、戸惑つていた。

Mさんへ返事を書くことにした。

「お気持ちは、ありがとうございます。尊敬しております。これからも、私のやさしいお父様でいて下さい。」

しかし、私は二度と同じ笑顔をMさんに向けることはできなかつた。いや、作り笑顔で心は拒絶していた。あれほど私に窓

開いた頃に登った山々の話を聞かせてくれ、自分で撮ったという美しい山々の写真を見せてくれたりした。私はMさんを父の小ささに失望しながらも、微微笑みも変えてしまつた。私たちの間は幾重ものベールで隔たり、もう通り合えるすべてを失つてしまつた。

久しぶりに帰省した五月の連休明け、病棟に出てゆくと、Mさんの部屋に違う名前が掛けられていた。三日前に腸穿孔を起し、緊急手術を受け外科に転科したという事だった。その後は便りも月後、妻に手を導かれ中庭の木立ちを散歩しているMさんの姿を見かけた。退院の日、内科に挨拶に来たらしくが、私は丁度週休だった。その後は便りもなく、健否もわからない。毎春、ヒヨコ・ナースを見ると、ふとMさんのことを思い出す。なぜあのとき、私は天使の翼を自ら降ろしてしまつたのだろうか。今私のなら、果たして天使となるのだろうか。五年前の春のことである。

スの暴動などから考えても、人種間の反目は悪化しつつある。互いに愛想よく挨拶を交わしながら、その深層では憎しみ合っているかも知れないという構図は、私たち日本人には非常に分かりにくいか、殆ど単民族国家に住む物人に種問題をとやかく言う資格はない。何にしても、この高級住宅からそう遠くはない所で、昼から道端に寝転び酒を飲んでいるアルコール中毒患者が散見されるワシントンD・Cのスマラム街があるアメリカの二面性を忘れてはなるまい。

それにしても、日本人は特殊な人種・民族のようで、十年以上アメリカに住んでいた日本の研究者の殆どが、この国を終の棲家とは思わず、少なくとも死ぬときは日本でと考へてゐる。アジア人でも、中国人、韓国人等は、同郷人同士のコミュニティを作りながらも、懸命にこの国で生き、ここで死んでいく。日本があまりに素晴らしい祖国である由なのか、日本人が、「それほど狭くはない海」で閉まれた島国で生きてきた特殊な民族であるからなのか、私にはまだよく分からない。

多民族国家としてのアメリカの深い悩みである。そして、口

おみそしるをつくった 三年 あつみ ゆう子

なつ休みになつて、わたしは、よし子さんにおみそしるのつくりかたを教えてもらいました。

さいしょは、おなべに水を入れました。そして、火をつけて二つまみぐらいかつおぶしを入れて、おゆがわくのをまちました。

よし子さんが

「かつおぶしがおよいだら、あなたのあいているおたまですくつね。」と言いました。

わたしが、かつおぶしがおよぐってどうしてだかふしきだったの、『どうしてかつおぶしがおよぐの。』と、聞きました。

そしたらよし子さんは笑いながら

「かつおぶしがあつくしかたがないからおよぎだすんだよ。」

といいました。

わたしはかつおぶしが泳ぐのをまちました。早く泳がないかなと思ひながらまちました。

そう思つてみていると、少しづつかつおぶしが動き出しました。わたしはあつくかつおぶしがかわいそうだと思うよりは、いろいろな方へ泳いでいくのをおもしろいと思いました。

だんだん早く泳ぎました。それを見ていたかったのですが、火を止めなさいと言われていたので、火をゆるめました。

そして、少しまつてから、あなたのあいているおたまで、およがなくなつたかつおぶしをすくいました。それから、よし子さんに聞きながらおたまにおみそを入れて、すこしづつといでいました。

それがおわったら、わかめとあぶらあげを入れておたまでかきましてできました。

竹花 信恵

五月九日

入浴中、突然福子が言つた。「お母さんのお顔ってどんなだっけ?」「どんなこと覚えているかな」「うーんとね、頭はわため!」バーマの母だった。今どこにいるのだろう。会いに来て下さい。

五月十五日

夕食の時の話題を引き継いでビデオを見た。障害を持った母親の子育ての様子、生活記録である。じつと見ていた子どもたち。一瞬の沈黙のあと、潔は「すごい。すごいね、あのさ、お母さんて、すごいね、えらいね」大きな声で、大きな感動を表現。彼の優しさの源は、そのような母の愛を受けていることにあると感じさせられた。

五月二十日

楽しい誕生会の夕食。会を盛り上げるはずの大人同士の会話。苦笑の範囲内ではあつたが、私への不穏な言葉として察知した中の貴文。「信恵さん、がまんよ、我慢。」私の背後からささやく。我慢とは無縫のような彼になぐさめられた。

五月三十日

晴天の日曜日。いつも沢山手伝ってくれる子どもたちが、「私、お友だちの家に行く。」「買い物に行って来ます」と昼食の後かけづけもそこそこに散り散りになった。そんな中で、「行ってらっしゃい」と送り出して「私やるから」とすべてを引き受けてくれた多音音。気負いも、力関係も、報いも何もない場面でのさりげない思いやりにはっとさせられた。

子どもたちの季節

仙道家

光の中で

佐藤家

長い夏休みが始まりました。涼しくて、雨ばかりでも、子どもたちにとっては最高のキラッキラの夏休みにしたいのです。

四月に家のメンバーの入れ替えがあり、それに伴つて何人かの子どもは担当者が変わりました。仙道家の二階のグループは、私が三年間担当してきた渥美姉妹と、各々担当者のもとを離れてやつきました源将士、田端高雄、上町俊、の五人の新グループとなり四ヶ月になりました。この新グループにとって今年の夏休みはより近い仲間として、またいざというときに助け合える兄弟姉妹のようなつながりが育っていく過程となるはずの大切な季節なのです。大人と子どもとの、子供同士の関係づくりに多くのチャンスになる楽しいそして冒険の満載された四十日間だからです。この期間に何ができるのか:四〇個の扉には一体どんなものを一緒につめるのでしょうか。

年令差の少ない五人です。前のグループでは末っ子だった将士が、このグループでは長男になりました。突然弟や妹が四人もできてしまい、きっとまたごつくことだらけだつたでしょう。ついで年下の子どもたちに、八つ当たりをして泣かせてしまう場面がよくあります。しかし、お出かけの時などしっかりと兄貴ぶりを發揮して助けてくれます。先日の林間学校では、保母たちやグループのみんなにおみやげを買ってきました。よく泣かされていた年下の子どもたちが「将士くんからもらったよ!」とニコニコ顔で見せてくれました。将士のやさしい気持ちが、グループの子どもたちに伝わったことでしょう。

そんな子どもたちと過ごす四〇日間。各々がキラキラしながら自己表現し、自分の限界をもう一回り拡大するための挑戦ができますようにと願います。そんな子どもたちと一緒に見落としがちな変化成長を見逃さず、承認し、励ましながら喜び会うことを深く決意させられます。新しい関係を作り上げるために!

五来 淑子

必ず訪れる彼らの自活する日にについて思うとき、その大変さをどう伝えるのか。そのため何が必要か、考えあぐねてしまいます。食事作りや掃除、洗濯ができたからといって、それで自活ができるとは思えません。そう簡単なものではないでしょう。「生活する」ことを見つづ、準備を進めていきたいと思います。

岩崎 まり子

日
誌
抄

四月一日

五月末日まで

- 四月一日 栗原忠さんよりいつものお励ましを。感謝。
- 四日 開設以来の三五%に当たる子どもと職員の入れ替えを実施。年度末から少しづつ準備してきた大引越し。
- 五日 今学年を頑張ろう会を。高校へ二名、中学へ四名、小学校へ一名が入学。小学生十九名、中学生六名、高校生四名、幼稚園一名の構成となる。それぞれが定めた目標を元気に披露して祝福を祈り、祝う。
- 九日 高校二年生三名が、生活の自立訓練を開始。部屋代、光熱水費、小遣い、部活など学校に関わる費用などを織り込んだ経費を会計からもらい、職員が地域のアパートに移つて空けた職員宿舎二室に、保証人を立てて部屋の賃貸契約書を交わし入居する。
- 十日 昨日から開始した高校二年生の生活訓練のために構成された、自立援助プロジェクトトチームと高校生の初会合を持ち、目標の設定などを。

十四日 町内赤十字奉仕団による構内の草取りご奉仕。職員と子どもで少しづつしていたのですが千二百坪の構内には行き渡らず伸び放題の草を手際よく。ありがとうございます。

○川口市の吉田孝子氏より月刊誌「子ども世界」を、毎月。十七日 朝、二名のお嬢さん来訪。ここに泊めて欲しいと。学校も、家も大嫌いでしばらくかくまつて下さいという中二の女子二名との対応を開始。食事と入浴と休養をさせる。落ちついて話を聞くと、ほど遠くない町の中学生で、今朝学校へ行くと出てきて、途中で着替え、ずいぶん前に聞いたことのある光の子どもの家を訪ねた。学校はテンデ面白くない、もう三月の初旬から殆どいつていない。家も嫌い、特に母親が……などなど。

当該の中学校へ、子どもたちの納得の上連絡、家庭訪問などを開始し、二ヵ月余りで、家に落ちつき、通学もし出す。

四日 マイフーズより温泉卵を。沢山。ありがとうございます。

十七日 江森ヘヤーサロン、散髪のご奉仕。感謝。

二十一日 金子嘉雄後援会長より野菜を。ありがとうございます。

二六日 ファミリーサポートプロジェクトチームの話し合い。

二三日 坂田民次さんのご厚意で田植えの初体験。（くら）

トする働きについて、☆条件整備は課題だが、要請された問題への対応は可能な限りする。☆具体的な働きはないが、児童委員である。具体的な協力は得られないか。☆光の子どものが地域が悩む問題の解決に寄与しながら本質的地域化を図る、など確認する。

五月四日 第八回子ども祭。今回も飯田さんのアルトサックス、アッシアの民族音楽、人形劇団「あひる座」の特別公演、古賀詠子さんのピアノ演奏、竹下由布子先生のご指導奏、竹下由布子先生のピアノ演奏による子どもたちの合唱、合奏に、絵画や書道など子どもたちの作品展示など。射的や焼き鳥、綿あめなどの模擬店も出して多彩に。地域の子ども六十名余りも参加して。

四日 マイフーズより温泉卵を。沢山。ありがとうございます。

十七日 江森ヘヤーサロン、散髪のご奉仕。感謝。

二十一日 金子嘉雄後援会長より野菜を。ありがとうございます。

二六日 ファミリーサポートプロジェクトチームの話し合い。

二三日 坂田民次さんのご厚意で田植えの初体験。（くら）

長い梅雨の夏休みに入っています。それでも子どもたちは雨の合間にボールを投げては打ち歎声を上げます☆発行が大幅に遅れてしまいました。編集者の怠惰と目白押しの夏休み行事の故とお許し下さい。☆七月末、五・六年生と八ヶ岳の赤岳に山梨・長野県境ルートから登りました。何回も登っていますが、一般に最も厳しいルートです。大天狗手前で中村がへたり、次に竹下が戻る。垂直にかぶさる鎖場前で竹花がここで帰りを待つと座る。登りながら激しい動悸に立ち止まり、何回か目がくらみました。初めての経験。その日のうちの下山で、同行の学習指導のヴォランティアの中島先生が、八ヶ岳で帰りの山でしたかね、とボソリ。ダメージを受けたのは大人だけで、子どもたちは帰りのバスです☆持っているエネルギーの差が開くのを実感しながら、大人の都合で子どもを叱つたり、追いつかないから待たせるような暮らしを戒められました。（暫）

反
射
光

長い梅雨の夏休みに入っています。それでも子どもたちは雨の合間にボールを投げては打ち歎声を上げます☆発行が大幅に遅れてしまいまし